

新年のご挨拶



神埼市長 内川 修治

新年明けましておめでとうございます。皆さまには新年を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は、昨年4月に神埼市長に就任しました。市民の皆さまの豊かな暮らしの実現に向けて、全力で市政に取り組んでいるところです。新年を迎えて、その責任の重さに気持ちをさらに引き締めて市政運営に当たらなければならぬと改めて心に期しております。

さて、近年私たちを取り巻く環境は決して穏やかなものではありません。長引く新型コロナウイルス感染症は、佐賀県内で昨年11月までに17万2千人が感染しました。私たちの日常生活や社会環境に甚大な影響をおよぼし、市民・事業者の皆さんには、多くのご負担とご苦労をおかけしております。また、ウクライナ侵攻や急速に進む円安による物価の上昇は我々の日常生活をはじめ、さまざまな経済活動への影響が問題となっております。1日も早くこの事態が終息し、平穏な生活を取り戻せるよう心から願っています。

そのような中で、昨年、若手職員による「子育て支援プロジェクトチーム」を立ち上げ「住んでよかった、住んでみたいまちづくり」を目指して意見交換を行い、今後はSNSを活用して、子育て情報発信や定住者増加に向け戸建て分譲地の創出等の計画策定に取り組んでいきます。さらに市内の豊かな自然を生かしてグランピング場やキャンプ場などアウトドア事業展開のための「中山間地域活性化プロジェクトチーム」これに加え「人口減少対策プロジェクトチーム」も発足しました。「万機は一誠に帰す」これは私の大好きな言葉ですが、何事にも誠心誠意をもって、市民が誇りと笑顔あふれるまちを目指して積極的に取り組んでいきたいと思っております。

また、令和5年度からは「第2次神埼市総合計画 後期基本計画」として「幸せつなごうかんざき くみんで支え合い、誇りと笑顔あふれるまちを目指して」をまちづくりのテーマとして、各種施策を実施していきます。

防災対策の関連事業としては、本来クリークが持つ用排水機能と大雨の水を一時貯留できる洪水調整機能の維持・回復を図るため、集落内クリーク等の整備事業「集落基盤整備事業」など、新たな事業に向けた計画の策定に取り組んでいきたいと考えております。

結びに、今年1年が皆さまにとって素晴らしい年になりますよう、また、ご多幸を心よりご祈念申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



神埼市議会

議長 田原 和幸

新年あけましておめでとうございます。ます。

令和5年の年頭に当たり、神埼市議会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、市議会に対し深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございました。心より深く感謝を申し上げます。

ロシアの侵略によるウクライナ情勢など国民生活にも不安が生じています。世界平和とコロナ禍での社会経済活動再開の妨げにならないよう、一日も早い終息を願うものであります。

地方分権が進み、「議会の役割と責任」が増し、社会経済の急激な構造変化を背景に、市議会には「多様化する民意の市政への反映と集約」

が期待されております。

昨年4月の議員改選により、新たな体制による18人の議員が誕生し、「市民に寄り添い、開かれた議会を創る」ため、市の意思決定機関として、市民にとりまして、実行力と魅力ある議会をつくる必要があります。

「城原川ダムの生活再建・地域振興」、「排水機場の能力向上」、「頻発・激甚化する大規模災害等からの防災・減災対策および復旧・復興対策」、「道路交通網の整備促進」、「福祉・教育」など市政への課題は大きく多岐に渡ります。市議会としても真摯に取り組んでいきます。

今後におきましても市議会の現状と課題について市民と双方向のコミュニケーションを深めるとともに、行政監視・政策提起能力の強化、社会のデジタル化に対応するなど議会運営の高度化・効率化を図る取り組みも積極的に進めていきます。

最後になりますが、本年もより一層のご支援、ご協力をお願いするとともに、市民の皆さまのご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



神埼市教育委員会

教育長 末次 利明

新年あけましておめでとございます。

市民の皆さまには、輝かしい令和5年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から本市の教育行政に深いご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、3年以上が経ちました。収束してきているかと思えば、再び感染が拡大し、完全な終息はなかなか難しいと思われまます。このような状況の中、市民の皆さまの安全・安心を第一に、感染対策を行い、また、内容の変更や人数制限等を行いながら、教育活動に取り組んでいます。

また、コロナ禍の中でも、保護者や地域の皆さまのご協力をいただき、児童・生徒は、勉強やスポーツ等に頑張っています。神埼市教育委員会といたしま

しても、新しい時代に向けて「ICT活用教育」や「英語教育」、「国際理解教育」等に取り組んでいます。特に、タブレットを活用した授業では、学習意欲の向上や学習理解の促進、集中力の向上等の手立てとして、さらに今年は、家庭学習でも活用していきます。

また、神埼市は今後も「知(知育)」「徳(徳育)」「体(体育)」の調和の取れた人間性豊かな児童・生徒の育成を目指していきます。

社会教育においては、コロナ禍の中いろいろな活動を再開してきましたが、何よりも市民の皆さまが安全・安心に活動できる場の提供が必要だと思えます。そのためには、中央公民館や千代田公民館、脊振公民館、新しくなった市立図書館や千代田分館・脊振分館を活発に活用していただくための環境整備や、公民館が主催する講座等を充実させることで、さらに多くの市民の皆さまに愛されるように取り組んでいきます。

教育委員会は、「子どもたちの未来のために」「市民の皆さまの生涯学習のために」本市教育の充実・発展に全力で取り組んでまいります。

皆さまの今年一年のご多幸を心からお祈り申し上げます、ご挨拶と致します。

今年の抱負

総務企画部

本年は「第2次神埼市総合計画」の後期基本計画(令和5年度から令和9年度まで)を3月に策定し、引き続き市全体の均衡ある発展と活性化に繋がるまちづくりを進めます。人口減少対策では、引き続き、若者や新婚世帯、子育て世代および三世同居を対象とした定住促進を図り、人口減少の抑制に努めます。

また、地域が行う自主的なまちづくりの活動に対する支援など、本市が地域の個性を生かした魅力あるまちとなるよう、取り組みを進めます。防災面では、最近、頻発する自然災害から市民の生命、財産を守るため、最新の防災情報を迅速かつ的確に提供できる取り組みを強化します。

また、消防・水防力の充実強化や交通安全・防犯対策の広報・啓発を実施し、安全・安心の確保に努めます。ふるさと納税では、PRを通じて、市の魅力発信、認知度向上を図ることと、寄付を促進し、定住・移住・交流・関係人口の増加に努め、地域の活性化に心がけながら、今後も制度の趣旨に沿った運営を行い、財源の確保と地域資源の活用を推進してまいります。また、産・学・官連携による新たな地域ブランドの開発や北部丘陵土砂採取跡地の事業進捗を図ってまいります。

財政面では、新型コロナウイルス感染症や原油等物価高騰の影響による経済動向が不透明な中でも、市民サービスの低下を招くことが無いよう、財源を重点的・効果的に活用するとともに、市税などの自主財源の安定的な確保を図るため、引き続き、適正な賦課・徴収に取り組み、健全な財政運営に努めます。

選挙では、本年は、佐賀県議会議員選挙の年です。選挙啓発事業を通じて、市民の皆さまの関心を高め、

投票率の向上を図るとともに、選挙が明るく公正に行われるよう努めます。

市民福祉部

市民の皆さまに最も近い窓口(市役所の顔)であることを認識し「あいつつ」で「笑顔」で、迅速・正確かつ丁寧な対応を心がけ、市民の皆さまに信頼される窓口づくりに努めてまいります。

窓口では、デジタル化の基盤となるマイナンバーカードの取得促進に取り組みます。

国保は、引き続き健全かつ確実に事業を推進します。

健康増進については、健康維持の基本である健康診査・食育・運動を推進し、健康寿命の延伸に努めます。子育て支援としては、妊娠前から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、必要な支援につなぐ伴走型の相談支援の充実と、経済的支援を一体として実施し、安心して出産・子育てができる環境整備を図ります。

環境面では、資源物の収集方式を変更し、循環型社会の形成に向け努力してまいります。また、適切な環境衛生の推進に努めてまいります。高齢者福祉では、高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活できるように、介護予防、集いの場づくりを推進してまいります。また、誰もが認知症に対する正しい知識を持つ機会を増やし、助け合いのまちづくりを推進してまいります。

障がい者福祉では、障がい者の社会促進を支援し、障がいのある人と家族の相談支援に努めてまいります。物価高騰が続く中、今後も生活の不安を抱える人の増加が見込まれます。相談体制を整え、生活に困難を抱える人の支援に努めます。

産業建設部

農政部門では、農業・農村が有する国土・自然環境の保全、水源の涵

養、良好な景観の形成など、多面的な機能が発揮されるよう農地、農道、農業用排水路や防災重点農業用ため池の整備を行い、農業経営の安定を図るとともに、新規就農者の支援、確保に努め農業振興を推進します。

また、近年の豪雨災害に対応するため、大雨が予測される場合に農業用基幹水路の事前排水および田んぼダムの取り組みを強化し、洪水調整機能を図り、被害の軽減に努めます。

水産部門では、漁港施設の整備などに対策を講じ、漁業の振興を図ります。

林業部門では、神埼市森林整備計画に基づき、5か年計画である森林経営計画において、植林、下刈、枝打ち、間伐、作業道の整備に取り組み、水源涵養や土砂災害防止など多面的機能の持続可能な森林づくりを推進します。

商工観光部門では、地域資源を活かした新たな魅力や賑わいの創出として、観光PR、商工業者の販路拡大等を実施し、また、企業誘致を推進することで雇用の場と定住促進を図ります。

建設部門では、既設インフラの機能維持や新設、改善のため計画的に事業を実施します。また、老朽化している公営住宅(本堀団地)の建て替えに取り組んでいます。さらに、内水氾濫が頻発する中流域治水対策として浸水被害の要因の分析を踏まえて、短期対策の一つとして排水ポンプ車4台を導入します。

城原川ダム建設については、早期のダム事業の進捗を図るため、ダム水没者等の生活再建に対し、寄り添いながらしっかりと取り組んでまいります。

下水道部門では、公共下水道および合併浄化槽の整備を行い快適な生活環境づくりに引き続き取り組んでまいります。

◎問い合わせ 生活環境推進課 生活環境係 ☎37-0112

4月から資源の再資源化を推進するため、資源物の分別・収集方法を細分化し、指定ごみ袋による収集方法からコンテナおよびネットによる収集方法に変更します。また、資源物は地区収集拠点での収集に変更となります。

なぜ出し方が変わるの？

※燃えるごみの出し方・場所・曜日はこれまでと同じです

現在、新しいごみ処理施設の建設および整備が進められています。

これまで、神崎市、吉野ヶ里町および佐賀市の一部（三瀬村、諸富町）の3市町は脊振広域クリーンセンターでごみの共同処理をしてきましたが、広域化により、鳥栖市、みやき町、上峰町、吉野ヶ里町、神崎市の5市町でのごみの共同処理に移行します。これに伴い、資源物の分別区分等について統一する必要があるからです。

脊振広域クリーンセンターより後に建設された鳥栖・三養基西部リサイクルプラザ（資源物等処理施設）で現在、共同処理を行う鳥栖市、みやき町、上峰町では、容器包装プラスチックなども資源として分別・収集するなど、資源物の分別区分を細分化し、コンテナ等によるコンテナ収集に取り組まれています。

神崎市と吉野ヶ里町もこの分別区分に合わせてコンテナ等による収集方法が変わります。

限りある資源を再資源化して、循環型社会の形成を推進するためにも、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

家庭に残った資源物の指定袋の取り扱い

コンテナ等収集方法に変更後、現在の資源物3種類のごみ袋（缶・空ビン、ペットボトル、トレイ）は、不要となります。令和5年3月の最終収集日までを使い切るようお願いします。



- ・ご家庭で余った資源物3種類のごみ袋は、燃えるごみの袋と等価交換を予定しています。交換方法、交換場所、開始時期は決定後にお知らせします。
- ・余ったごみ袋は地区収集拠点までの運搬に使うなど、他の用途にも利用できますので有効活用をお願いします。

ごみ処理施設への直接持ち込み



①脊振広域クリーンセンター（神崎市）
【令和6年3月まで】



②鳥栖・三養基西部リサイクルプラザ（みやき町）
【令和6年4月～令和11年3月】

③佐賀県東部環境施設組合 次期リサイクル施設（鳥栖市立石町）【令和11年4月～】

仕事の都合などで収集日に出せない場合

市民ならどなたでも資源物などを持ち込めるリサイクルセンターを神崎町に1カ所、リサイクルコーナーを千代田町と脊振町に各1カ所設置予定です。具体的な場所や開設日時は決定後にお知らせします。

分別区分


20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
※地区説明会では調整中としておりましたが、令和5年度は分別収集いたしません。	燃えないごみ	紙類				ペットボトル	「新」発泡スチロール	白色トレイ	「新」容器包装プラスチック	ビン類					有害ごみ（電球・乾電池・水銀体温計等）	「新」食用廃油（ペットボトルに入れる）	缶類			分類区分
		紙パック	雑誌、雑紙類	新聞、チラシ	段ボール					無色のビン	茶色のビン	ビールビン	一升ビン	スプレー缶			スチール缶	アルミ缶		
燃えるごみ	袋	ひもでくくる				ネット			コンテナ											



○製品がプラスチックそのもの（ビデオテープ、ハンガーなど）
○商品の付属品（CDケース、弁当のスプーンなど）
○汚れが取れないもの（チューブ類等）

次のものは燃えるごみへ



容器包装プラスチックとは？
中身を使い切ったり、商品を取り出した後に不要になるプラスチック製の容器や袋のことで、マークが表示されているものです。色付きのトレイもこれに分別します。

容器包装プラスチックとは？

地区拠点でのごみ出しの流れ

前日



収集業者がコンテナ、ネット、分別パネル等を各地区拠点に配布します。

収集日の8:30まで



推進員（当番等）でコンテナとネットを設置します。表示看板に従ってごみを分別して出します。

収集日の8:30～順次



収集車が順次回収します。空のコンテナとネットもすべて回収していきます。

美しい日本語の響き 児童31人が披露

10月22日



嘉村美佑くん

田中ひかるさん

日本語の素晴らしさに気づいてもらうことを目的とし、市内の小学校から代表31人が参加した第19回美しい日本語暗唱・朗読大会が、はんぎーホールで開催されました。

児童たちの心を込めて一生懸命に発表する姿と美しい日本語の響きは、鑑賞に訪れたたくさんの人たちを魅了し、会場は感動に包まれました。

審査の結果、暗唱の部は嘉村美佑くん（神埼小1年）、朗読の部は田中ひかるさん（脊振小6年）が最優秀賞に選ばれました。

バレーボール「Miyachiクラブ」 全国大会優勝！

10月19日



市内を拠点とし活動するバレーボールチームでMiyachiクラブのメンバーが、9月に行われた第25回全国ヤングバレーボールクラブ男女優勝大会U-19女子の部で優勝したことを市長に報告しました。

同クラブは、もっとバレーボールをしたい、もっと上手になりたいという思いを持った、幅広い年代の人が所属しています。

市長は「打ち込めるものがあるのは素晴らしい、これからも精進して頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

絵画や日舞など多彩に 千代田町文化祭

10月28～30日



第43回千代田町文化祭が、はんぎーホールや千代田町保健センターで開催されました。今回は、新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となり、作品展示部門では40人以上が出品。絵画、タペストリー、廃材アート、切り絵などが展示され、会場を訪れた人たちは、その出来映えに感心しきりでした。ステージ部門では日舞や民謡、ダンスなど多彩なパフォーマンスが披露され、拍手喝采でわきました。

また、音楽愛好家と市民が楽しむ「神音祭」も開かれ、観客は楽しいひとときを過ごしていました。

脊振かかし村 「医療従事者に感謝」テーマに

10月22日～11月13日



脊振町倉谷地区に今年もかかし村が出現しました。倉谷地区かかし作り同志会と脊振を愛する会が連携して行い、7回目となります。

今年は「医療従事者に感謝」をテーマに開催。医療従事者の様子を模したかかしたちが、メイン会場に登場しました。

また、山あいの暮らしを表したユーモアたっぷりのかかしの前では来場者が足を止め「懐かしい」「昔はこうしよったね」と話に花を咲かせました。

ベテランガイドの真島久光さん（脊振町岩政倉今）は「愛嬌のあるかかしを見て笑って元気になっていただけたら嬉しい」と話していました。



高取山公園(神埼市地域おこし協力隊)
https://www.instagram.com/takatoriyama_park



Instagram アカウント名:くねんニャン[公式]
<https://www.instagram.com/kunennyann0501/>



神埼中学校・千代田中学校 ソフトボール部市長表敬訪問

11月21日



神埼中学校、千代田中学校ソフトボール部の生徒が、第35回佐賀県中学生新人兼第33回九州中学生選抜ソフトボール大会予選会の結果を市長に報告しました。

神埼市同士の戦いとなった決勝では神埼中学校が9対6で勝利しました。両校とも2月に鹿児島県で開催される九州大会へ出場します。

主将の中垣瑠依さん(神埼中2年)は「笑顔で全力プレーを心がけた。周りのサポートがあり優勝することができて良かった」と話し、野口奈那さん(千代田中2年)は「全員が練習の成果を発揮することができた」と話しました。

市長は「九州大会でも両チーム優勝を目指して頑張ってもらいたい」と激励しました。

戦没者追悼式 平和へ祈り

11月15日



戦争の犠牲者に追悼の意をささげ、平和への決意を新たにしようと、戦没者追悼式が中央公民館で行われました。

遺族ら131人が参列し、戦没者の冥福を祈るとともに、恒久平和を祈念しました。

終戦から77年を迎え、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、参列者が戦没者に対して黙とうをささげた後、慰霊の祭壇に一人ずつ献花をしました。

市民が活動を披露「交流祭」にぎわう

11月26日



市内のさまざまなグループが活動を紹介する第16回元気かんざき市民交流祭が、市役所本庁舎南の駐車場などで開かれました。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催。

市民が麺を両手に持ってつないでいく「どこまで伸びるかんざき麺」には子どもから大人まで約360人が参加し、にぎわいました。「ひょっとこ踊り」「バナナのたたき売り」「キッズダンス」「BMXパフォーマンス」も披露され、訪れた親子連れなどが、楽しそうに見入っていました。

そのほか、子どもがトラックの運転席に乗る職業体験や牛肉・野菜販売、フランスのポークール市との友好姉妹都市について紹介する資料も展示されました。

